

紋高養通信

「高らかに響く歌声」

紋高養には、歌を歌う学習の時間が多くあります。主に朝の数十分の間ですが、校歌や学年の歌、クリスマスコンサートで歌う歌など、いろいろな曲の合唱に取り組んでいます。

新しく高校生になった26名の1年生は、入学後すぐに校歌、学年の歌の学習に取り組みました。校歌には、紋別の街並みや四季の自然が描かれています。校歌に書かれている風景がはっきりと思い描くことができるのはもう少し後のことになるのでしょうか、校歌を覚えながら、紋別での生活にも慣れてきているところです。2年生との合同発表会では、朗らかな声で校歌と「この地球のどこかで」の合唱を発表しました。

2年生は、1年生と学習の成果を発表し合おうということで、合同発表会を企画しました。「何を発表したらいいか?」「どこでやろう?」「発表順番はどうしようか?」など、みんなで意見を出し合いながら発表会を作り上げました。



その中で、2年生はよさこいと「大空賛歌」の合唱を発表しました。

3年生は、学年の歌を話し合いで決めました。卒業式を含め、いろいろな場面で歌うことがある歌をみんなで相談し、「旅立ちの日に」という歌に決定。今までに過ごした2年間、これからの1年間、そして、卒業後に待っている生活に思いを馳せながら、練習を重ねているところです。いろいろな思いを乗せた歌声が校舎に響きます。

全校生徒56名の歌声が、今日も校舎に響いています。

紋別養護学校通信

「避難訓練の様子」

本校では防災訓練の一環として年間を通して継続的に避難訓練に取り組んでいます。新年度に入り新入生や新しい教職員が多かったこともあり、今年度は例年より早い4月に第1回目の避難訓練を行いました。児童生徒向けには全校児童生徒が集まって活動する「全校集会」の中で事前学習を行いました。教員が火事の恐ろしさを絵を使って説明し、具体的に避難する場面の模範を示しながら、わかりやすく避難する際の約束「押さない、走らない、しゃべらない」を伝えました。教員の「押す」、「走る」、「しゃべる」といった間違っただけの行為に児童生徒は「ちがうよ」と間違いを指摘したり、不思議そうな表情を見せるなど避難の具体的な場面を考えながら見たり聞いたりすることができているようでした。その後も各学級で継続して避難についての話を伝え、理解の定着を図りました。教職員に対しても昨年度完成した「危機管理マニュアル」を使用し、避難時の役割分担や動きについて理解を図りました。

難訓練当日は事前学習での成果が出たようで、どの



児童生徒も避難の約束を守りながらハンカチを口にあって静かに避難することができました。教職員も年度が変わってすぐではありましたが、スムーズに避難誘導や点検を行うことができました。

今年度は学校で4回、寄宿舎で3回(うち1回は学校、寄宿舎合同訓練)の避難訓練を予定しています。今後は地震を想定した訓練、夜間の訓練、消防署と連携して行う「防災訓練教室」、予告のない訓練など様々な内容を想定して行う予定です。いずれにしても、継続的に行うことで児童生徒に対しては、火事の恐ろしさや自分で自分の身を守ることの必要性を伝え、教職員に対しても日ごろから防災意識を持ち、もしもの際に自分の役割を理解しいち早く避難できるように努めていきたいと考えています。